

深まりのある「学び」を目指して

～伝え合い、ともに学ぶことによる思考力の育成～（3年次）

郡山市立郡山第二中学校（代表） 校長 飯村 新市 教諭 松田 吉弘

1 研究の趣旨

「うつくしま教育改革推進プログラム」では、「確かな学力」とは「基礎的な知識や技能に加えて学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力まで含めた力」と定義づけている。また、第6次福島県総合教育計画における言語に関する能力の育成に関しては、「全ての教科等において子どもたちの言語活動の充実を図る」とある。また、郡山市教育委員会作成の『学習教育指導の重点』においても、その目標の柱の一つに「思考力、判断力、表現力などの育成を目指した言語活動の充実」が述べられている。

本校生徒は、知的好奇心が高く、課題や活動には素直かつ真剣に取り組む生徒が多いが、他者と交流することから得られる学びの力が育っていないと感じられる。

そこで、他者との関わりの中で生徒の思考力を高めさせるために、以下に述べるような仮説を設定し、本主題に迫った。

課題解決における一連の探究過程において、「基礎基本の確実な定着」「コミュニケーション能力の育成」「新しい知識・技能の構築」に向けた手立てを講じ、生徒の内発的動機を喚起する。そして、系統性や連続性、発展性のある学びの中で、価値ある知識・技能や学び方のつながりを確実に獲得し、他者とのコミュニケーション活動を行うことで、それらを課題解決に適切に活用して自らの思考力を高められる生徒の育成を図ることができるであろう。

2 研究の概要

(1) 研究内容・方法

研究主題に迫るため、次の具体的な研究内容を設定し、研究を進めた。

- ① 学習教材の開発や研究、学習内容の改善を通して、確かな学力の定着を図り、自ら学ぼうとする意識を高めることにより、知識・技能を確実に獲得する資質や能力を養う。（基礎基本の確実な定着）
- ② 自分の想いを言語活動や非言語活動を用いて他者に正しく伝え、考え方を共有し、自らの知識を新たに構築するとともに、他者の想いを正しく理解し、自分の考えと比較し、思考を深めることができる場や学習課程を設定する。（コミュニケーション能力）
- ③ 提示された新たな課題に対し、既知の知識や体験と結びつけ、課題と自らの知識・技能との新たな関係を見出しながら解決し、知識・技能の再構築を重ねることで、深まりのある思考を培う。（新しい知識・技能の構築）

(2) 3ヶ年の計画

研究のねらいを達成するために、3ヶ年計画で次のテーマを設定して研究を進めることにした。

1年次(平成26年度)は「表現力・受信力」を高める活動の工夫

2年次(平成27年度)は「学びの型」を活用し、「伝え合い、ともに学ぶ」活動の工夫

3年次(平成28年度)は「思考力」を高める授業の評価・改善

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① 授業の過程の中に、生徒が学ぶ必要性が感じられるような学習課題の提示と、それを理解し定着させるための「学びの型」を活用させることで、学習内容の確実な定着に繋がる取り組みを工夫することができた。
- ② 一つの学びが次の学びへの意欲を喚起させる系統だった授業を展開することで、多くの生徒が学習内容を自らの力でまとめ、その内容を正しく伝え、自分の思考を一つの形として表現できるようになった。

(2) 今後の課題

どのように生徒の思考力を高めるかという課題を常に意識するとともに、「学びの型」を活用し、生徒の授業への活発な参加を促すことで「伝え合い、ともに学ぶ」態度を進化させ、生徒の「深まりある学び」を今後も追及していく必要がある。